

浦幌町立博物館だより

令和2(2020)年6月号

編集・発行：浦幌町立博物館 ☎089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16-1 / ☎015-576-2009 / ✉museum@urahoro.jp

「自粛警察」・「コロナ差別」・・・

時代の負の側面を歴史に刻む

地元民以外は嫌がらせ

新型コロナウイルス感染症の流行は、あらたな社会問題を生み出しています。営業自粛を求めるあまり、営業中の商店や自動車などに「自粛しろ!」という落書きや貼り紙をする通称「自粛警察」などの問題です。

函館在住の知人に、興味深い写真を見せてもらいました。異動や進学などの事情で、函館以外のナンバープレート(札幌や帯広など)を付けている車両に、嫌がらせをされる事件が続いているそうです。

そこで市内の包装紙メーカーが「函館在住」をアピールするステッカーを製作。ナンバープレートの近くに貼ることで、「私はよそ者ではありません」とアピールし、嫌がらせを防ぐのです(5月23日付北海道新聞道南版による)。

このステッカーは、「自粛警察」の存在を記録した資料となり得ます。



函館市の丸栄堀川紙器が製作した「函館在住」ステッカー。函館ナンバー以外の車両に乗る人が、自衛のために自動車やバイクに貼ってアピールするためのもの。

(写真提供：米林千晴氏)

パンデミックが生む差別

家族が病院で働いている人に「学校へ来るな」と言ったり、配達業務についている人にいきなり消毒スプレーを吹きつけたり、人種や国籍によって、暴言を浴びせたりあからさまな態度で嫌がらせをしたり。

日本心理学会は『歴史的にみて、伝染病やパンデミックは、偏見や差別を誘発しがち』であり、『偏見、差別

は公衆衛生上の脅威・・・手を洗い、適切な社会的距離を維持することが大事なのと同じく、多様な人々やコミュニティを受け入れることもまた、重要な公衆衛生上の実践』と、差別に立ち向かうことを宣言しています。

皆さんのなかで、コロナ問題で差別や偏見、嫌がらせを受けた経験はありませんか?なにか関連するモノや写真をお持ちの方、経験を証言としてお寄せいただける方は、匿名でも結構ですので、博物館までお寄せいただけましたら幸いです。社会の負の側面も、後世に伝えていく責任が博物館にはあると考えています。

(浦幌町立博物館 学芸員 持田 誠)



上は手づくりの布マスク(加藤ゆき恵氏製作)。
下は手づくりのガーゼマスク(山本ひとみ氏製作)。
いずれも浦幌町立博物館所蔵。

手づくりマスクで展覧会

新型コロナウイルスの感染防止として、「マスク」が重要な被服アイテムとなっています。一時期市販のマスクが不足したため、ご家庭でのマスク自作が大流行。カラフルで多彩な手づくりマスクはコロナがもたらした新しい文化ともいえるのではないのでしょうか?

市販のマスクもだいぶ流通してきたので、博物館では夏休み期間中に企画展「コロナな時代のマスク美術館」を開催予定です。み

なさんが自作されたマスクを、苦労した点、工夫した点などのメモと共に、博物館で展示してみませんか?

基本的には写真での募集を考えていますが、現物の寄贈も受け付ける予定です。マスクを着用している姿の写真も歓迎します。

詳しくは、これから配付する「手づくりマスク大募集」のポスターやチラシをご覧ください。